

春山林道の植物採集

楯 誠 治

第107回例会は、昭和60年8月10日(土)11日(日)、木曽谷は、御岳山のふもと、三岳村から王滝村への春山林道を中心に採集会が行われた。参加者は当日の参加者もふくめて、奥原弘人、和田清、古谷義人、中澤袈裟延、小林富雄、小口好久、酒巻裕三、幹事の楯誠治の8名であった。

夕方、三岳村釜沼温泉「大喜泉」に集合し、温泉につかって汗を流したあと夕食、自己紹介しながら懇親を深めた。酒巻さんは、この会に入会したばかりで、はじめての例会参加だそうです。今は、開田境の三岳村の御岳山麓で、三岳村の畜産団地、三岳村のスキー場開設のための測量の仕事をしているそうです。また奥原先生からは、木曽谷全般についての植物のお話や、この地域の植物についてのお話がありました。

11日(日)当日参加者がみえたので、2台の車に分乗して、まず、上松、三岳、王滝の村界の山頂にある東京天文台木曽観測所へ行った。この天文台は、10年ほど前に完成されたシュミットカメラ型のものである。口径105cmのレンズを持ち、世界で3番目の大きさである。B4よりやや大きめの天文写真を撮り続けている。ここから御岳山のながめがすばらしく、昨年の地震で崩壊したところもみられた。

この敷地では、ネジバナがたくさんみられたが、その中に白花のネジバナがあちこちに確認され、めずらしかった。その他に、ホソバツリンドウ、コナラ、アカマツ、ミツバサワヒヨドリ、マツムシソウ、オミナエシ、ヤマニガナ、ヤマハギ、オオヤマザクラ等がみられた。また、まわりに牧場があるので、タチオランダゲンゲというクローバに似ているが赤っぽい花をつけた帰化植物もみられた。

峠を下って、才児部落の下で、休耕田に入ってみると、エゾシロネ、アカバナ、ヒメシダ、ミズチドリ、クサイ、ヒロハドジョウツナギ、アゼナ、トキンソウ、キカシグサ、イヌタデ、コケオトギリ、ヘラオモダカ等がみられた。また、昔栽培していたとおもわれるエゾリンドウが、ところどころに今盛りと花をつけていた。

左手に下っていくと、上松町の焼笹、小川地区へ出る。小川の上流には有名な赤沢美林がある。下流は上松町へと続く、今日は右側の道、春山林道に入り、峠を上る。

コナラの上限とおもわれるところの沢に入るとミズタマソウ、アケボノソウ、クモキリソウ、ハエドクソウ、ウワミズザクラ、フサザクラ、ケニガナ、シラカンバ、ミズナラ、コナラ、バイケイソウ、ニオイタチツボスミレ、アギスミレ、オオヤマザクラ、オオヤマサギソウ等がみられた。

アカマツの林をぬけて、頂近くの小さな沢に入ってみる。海拔1200mぐらい、ウメガサソウ、チゴユリ、タニタデ、ヤマジノホトトギス、ジンバイソウ、オオヤマサギソウ、ジイソブ、ヒトツバカエデ等がみられた。さらに少し奥に入ったところで、ミヤマツチトリモチをみつけて、今日の大きな発見となった。7株ほどみつけた。寄生植物というので、その様子を調べるために1つ掘りだしてみた。寄生している事実がみとめられたのでまわりの木を調べると、シラカンバ、ハウチワカエデ、ツリバナ等があった。沢の入口の丘の上には、ブナがみられた。和田先生のお話では、ブナ帯のなごりで切られなくて残ったものだという事です。

王滝へ下っていく途中で昼にした。さらに下ったところの乾いた沢で、一沢一面にフシグロセンノウが咲いていたので写真におさめた。

御岳湖が眼下にみえて、いよいよ王滝の部落になるあたりで、ウラジロマタタビの実のついたのを見つけて、採集したり写真にしたりした。またその近くで、カラクサシダという小さなシダをみつけることができて大きな収穫となった。

昨年の地震の中心、王滝の松越地区をへて、県道、三岳、王滝線にて三岳村に帰る。地震の恐しさを膚で感じる事ができた。王滝では、百草を買った人もいた。宿の下では、カエデダイモンジソウ、ヤシヤゼンマイ、サツキ、イワタバコ、ホソエカエデ、トチノキ、オシヤグジデンダ、クラガリシダ等を確認した。さらにバライチゴの花と赤い実の写真も撮ることができた。

〔植物ニュース〕97. イロハカエデ *Acer palmatum* Thunb.

カエデ類の性表現は複雑である。イロハカエデの仲間は雄性同株とされているが、辰野町の公園で観察した2本の大本では両性花も雌花もみることができなかった。雄株であろうか。(清水建美)